

第168回 令和8年2月3日（火）

「経済の大変化について。」

人類が発明した経済システムの一つに「資本主義」があります。資本主義には修正資本主義や新自由主義など細かく見ればいくつか種類がありますが、基本的に一つの原則から成り立っています。

例えばアイスクリームを製造、販売するとします。アイスを作る工場を所有している人を「資本家」と呼びます。そして工場で働く人を「労働者」といいます。

資本家は工場をリニューアルしたり販売店舗を増やしたりしますが、アイスを直接作ることはあまりありません。労働者は決められた数のアイスを作ります。

1日にアイスが1万円分売れたとします。資本家は1万円を分配します。例えば労働者は賃金として千円をもらいます。経営状態が悪くなれば賃金が減ったり、労働者が解雇されたりしますが、現在は最低賃金法があるので極端に賃金を減らすことはできません。

資本主義は資本家に有利なことと、経済格差が広がる懸念があり、政府が介入して累進課税方式で資本家から多くの税を取り、それを福祉の形で貧しい人たちに還元します。

工場などの生産手段を国が所有し、国民すべてに平等に分配するのが共産主義です。

さて未来にはAIやロボットが工場で働くようになります。初期費用や修理代はかかりますが、いままでのように人件費がかからないので、資本家はさらに利益をあげることができるようになります。

労働者の雇用は確実に減るので経済格差は広がります。ただし労働者の賃金が減ると町にお金を持っている人が減ってしまうことになりますからモノが売れなくなります。人々にアイスを買う余裕はなくなります。

モノが売れなくなれば不況になりますから資本家も生活が厳しくなります。AIやロボットの費用を返済できなくなる資本家も増えると思います。そうすると税収は確実に減ってしまいます。

税収が減れば生活が苦しい人に対する福祉も不十分になります。購買層である若い人の人口が少なくなり、なおかつ所有している財産も少ないので不況は進みます。一方でAIやロボットへの投資をした資本家はある程度価格を上げざるを得ないので、不景気なのに物価が上がるスタグフレーションになる可能性があります。

新しい経済システムを構築し、政府が公共事業で雇用を増やすしかありませんが、税収がないのでそれも難しくなります。最後は途上国をめぐって戦争になるかもしれません。その前にAIやロボットの正しい導入を考えるべきだと思います。